

## The 10th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

渡邊 一久

(日老医誌 2019 ; 56 : 544)

このたび2019年6月14日～16日に中国・長春で開催されたThe 10th IAGG Master Class on Ageing in Asiaに参加させていただきました。私は現在、名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学に在籍し、附属病院老年内科病棟における臨床業務、また嚥下障害・糖尿病を中心とした研究に携わらせていただいておりますが、現在私が取り組んでいるこれらの事項について、アジア各国の老年医学の先生方と意見を交換してみたいと考え、応募いたしました。

講義ではアジア各国の、臨床・研究をリードする講師の先生方より、高齢者救急、ポリファーマシー、フレイルなどに関して最先端の老年医学の知識を学ぶことができました。また、症例を通じた小グループディスカッションでは、各国の参加者の先生方との議論を通じて、症例のとらえ方の違いを議論できたことはもちろんのこと、国によって高齢者を取り巻く社会制度が異なることを実感できました。

本邦における老年医学の専門性は、高齢者に多い急性疾患、慢性疾患を高齢者の特性に基づいて専門的に診療できることはもちろんのこと、介護予防からエンドオブライフケアまで、高度先進医療や救急医療を扱う中核病院での診療から、亜急性期、慢性期の病院、施設での診療や在宅診療まで、広範な守備範囲を要求されていることにあると考えます。各国それぞれに発展している分野を学ぶことができ、臨床家として、研究者として今後本邦の老年医学の発展に資するため、見識を広げる機会になりました。今回が初めての英語での研究発表でしたが、チューターの先生始め、参加者の先生方よりご質問いただくことができ、さらなる学習の必要性を感じ



写真

た一方で、アジアの先生方にもその有用性・必要性をお伝えできた充実感を得ることができました。

講義、小グループディスカッション、研究発表とタイトな3日間でしたが、最終日午後に東京大学・小島太郎先生、Yonsei大学・Yon Chul Park先生、そして日韓参加者の先生方と偽満宮博物院に観光しました(写真)。日本とも関係性の深い長春で、以上のような貴重な体験をすることができ、IAGG・日本老年医学会の関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。